

歌声が函館おしま病院（函館市の場町、福德雅章院長）のホスピス病棟一階の談話室に響いた。歌っているのはシンガーソングライター「やなせなな」さん。六月に開かれたこのコンサートは、福德院長が、やなせななさんの実兄であるやなせ皮フ科クリニック（函館市大手町）の梁瀬義範院長に依頼して実現したものだ。

やなせななさんは家業の寺（奈良県）の僧侶として仕事をする傍ら、関西を拠点にライブハウスやコンサートホールで活動を行っている。函館おしま病院では「ふるさと」や「浜辺の歌」といった懐かしい唄のほか「街の灯」などのオリジナル曲も歌われたが、患者と一緒に参加した家族の、涙する場面が強く印象に残った。

函館おしま病院では、毎月のように音楽コンサートなどのイベントを開いている。音楽には苦痛を

緩和するといった癒しの効果があるとも言われているが、その不思議な音楽の力について、福德院長に話を聞いた。

◆音楽の不思議な力

自分自身が音楽を聴いた時のことを考えてみたいと思います。きれいなメロディー、或いは美しい音色が聴こえてくると、現実から離れ、何とも言えない心地よい気分になることがあります。また、昔よく耳にした音楽（歌）が聴こえてくると、昔の思い出が蘇り、懐かしい気持ちでいっぱいになります。こんな時は、疲れがいつぱんに吹き飛んだり、嫌なことを忘れたり、また何故か、優しい、温かい気持ちが湧き出てくることもあります。音楽は、単に楽しむだけでなく、さまざまな不思議な力を持っているように思えるのです。



そんなあなたが笑う あたたいテーブルの上に
今日も明日も やさしい歌が
このまま ずっと 流れますように
（「街の灯」より 作詞・作曲 やなせなな）

◆やなせななさんのコンサート

今回のコンサートでは感動的な時間をいただきました。やなせさんには曲目は特にリクエストしていませんでした。患者さまの年齢層、ご家族も参加されることだけを伝えていました。

約四〇分ほどのコンサートでしたが、ピアノ伴奏の中、アンコールを入れて九曲、歌っていただきました。オープニングの「この道」から始まり、「夏は来ぬ」、「浜辺の歌」、「赤とんぼ」などの懐かしい日本の歌のほか、オリジナル曲を数曲、そして最後には「ふるさと」で幕を閉じました。その美しく、澄んだ、丁寧な歌声に、

患者さまやご家族はもちろん、私たちスタッフも深く聞き入り、感動を覚えました。特に懐かしい日本の歌は、年齢層を問わず、心に響きわたったことと思います。患者さまの中には、道外に住んでおられながら、発病を契機に「最後は故郷である函館で過ごしたい」と帰ってこられ、私どものホスピスに入院されていた方もおられました。やなせさんの歌を聴き、故郷に帰ってきたことを改めて実感し、色々な思い出が蘇ってきたことと思います。

また、ご家族の中には、感極まって涙を流されている方もいらっしゃいました。それぞれに、それぞれの思いが音楽によって引き出

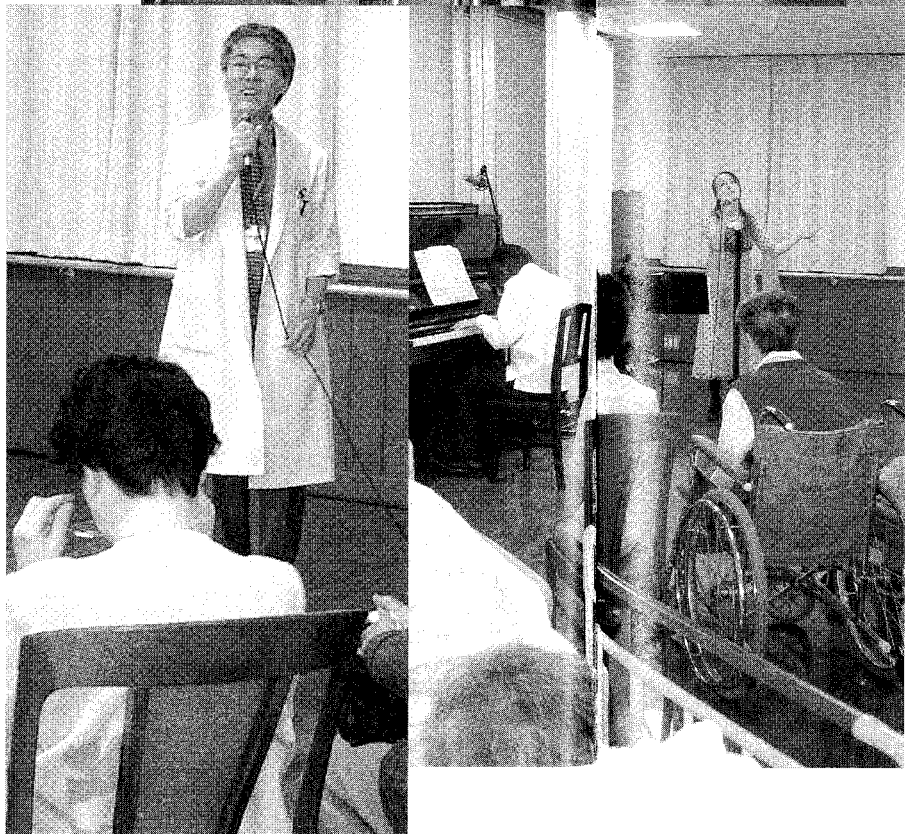
音楽の不思議な力

函館おしま病院のホスピス病棟で開催された「やなせなな」コンサート。心にのこった、温もりある歌声とピアノの調べに涙する患者の家族。

函館おしま病院理事長・院長 福德 雅章

病を抱えている方々にとって、音楽はどのような効力があるのでしょうか。薬では取りきれない身体の痛みや苦しさをほんの一瞬でも忘れさせてくれたり、不安や恐怖などを鎮めてくれることがあります。死に直面している人にとっては、スピリチュアルな痛みを和らげる癒しの力もあるでしょう。生きていくことを改めて実感させてくれたり、歩んできた人生を振り返るよう導いたり、また苦難から立ち直るきっかけとなったりすることもあります。心の中にとどめていた色々な感情を表出させてくれることもあります。持続的ではないのかもしれませんが、音楽を聴いているその瞬間は、このようなささまざまな効力が発揮されるのではないのでしょうか。

私たちの大脳にさまざまな形として刺激をもたらし、どんな言葉や治療の手を差し伸べても届かない、その人の心のひだにしみこんでいくのが、音楽なのかもしれません。



されたり、癒されたり、また思い出の中に引き戻されたりしたのではないでしょうか。

◆音楽を取り入れて

私たちの病院では日々の中に積極的に音楽を取り入れていきたいという考えがあります。私自身は、大学病院時代から、病院で患者さまのためにコンサートを開けたら、という思いを強く持っていました。それは、先ほどもお話しした、音楽の不思議な力を感じていたからです。

今は、月に一回程度の頻度で何らかの催しを開いておりますが、そこで、色々な方のお力を借りながら音楽も提供してきました。ハ

ープ奏者の池田千鶴子さんには定期的にコンサートをお願いしているほか、スタッフにも指導して頂き、そのスタッフも事あるごとに患者さまやご家族のためにハーブを奏でています。ハーブの音色はとりわけ癒しの効果があると感じます。

まだまだ私たちのやっていることは音楽療法と言えるほどのものではないかもしれませんが、厳しい状況の中におかれた患者さまやご家族のこころを少しでも癒すことのできる、その一つの方法として、今後積極的に取り入れていこうと思っております。音楽は、全人的支援をするためのひとつの引き出しと言えます。